

量販需要に応じた輪ぎく年4作生産方式の実証

【研究のポイント】

＜背景＞
 現在、輪ぎくは長さ90cm程度の規格で市場に出荷されています。しかし、近年、スーパーなどの量販店では、仏花等に供されるパック花(右図 長さ40～70cm)の需要が増えています。花束加工業者は、主に単価の安い輸入品を短く切って使用していますが、品質・納期に問題があるため、安心して確保できる国産の加工用輪ぎくを求めています。

＜取り組みの経緯＞
 平成24年度から、杵築市の生産法人(株)花畑で、パック花用の輪ぎく(エコ맘)の年4作(通常は年3作)の実証試験に取り組んでいます。この試験では、通常の栽培と遜色のない経営を目指して、定植本数等の栽培方式や選花・調整方法の改良、流通等について県農協や市場((株)なにわ花いちば)とともに検討を行っています。



(パック花)

	1月	2月	3月 需要期	4月	5月	6月	7月	8月 需要期	9月 需要期	10月	11月	12月 需要期
従来の作型(例) <年3作>	◎	—	—	■	◎	—	—	■	◎	—	—	■
エコ맘作型(例) <年4作>	—	—	■	◎	—	■	◎	—	■	◎	—	■

【研究の成果】

＜年4作実証＞
 ・12月(年末)、3月(彼岸)、6月、9月(彼岸)の物日を中心に、長さの短いエコ맘では年4作生産が実現できました。
 ・定植本数を従来の140%程度に増やしても品質的に問題ないことを確認しました。
 ・生育の揃いが大変良く、出荷率も非常に高いことが明らかになりました。

＜流通体制など＞
 ・流通体制については、県農協、(株)なにわ花いちばが連携し、大阪府の花束加工業者3社との予約相対取引を実現するなど、円滑に流通させるための試みを行っています。
 ・選花機は、長さ選別や下葉を取り除く機能を付加するなどの改良を行い、加工業者が入荷したきくをそのまま花束に加工できるようになりました。
 ・経営評価では、年4作+定植本数の増加により、従来の栽培方法より単価は下がるものの収益の増加が期待できます。



(定植本数を増やしても品質が揃うエコ맘栽培)

【生産者の声】



農産物の国際化がさらに進もうとする中で、エコ맘の取り組みは是非とも必要です。実際にやってみて、課題はありますが、花束加工業者からは高い評価を受けています。引き続き、エコ맘の経営確立に向けて頑張ります。

(株)花畑 代表取締役社長 藤原さん

【実需者の声】



パック用の輪ぎくは多くを輸入品に頼っていますが、品質の問題や納期どおりに入荷されないこともあり、常にリスクを抱えています。国内で生産体制が整うことを強く望んでいます。

花束加工業者 (大阪市内)

【連絡先】
 担当: 農林水産研究指導センター農業研究部 花きグループ 花きチーム
 TEL: 0977-66-4706
 住所: 大分県別府市大字鶴見710-1